

## オーストラリアにおける言語教育 Part 13

### —ALL Project 総論—

那 須 恒 夫

(教育学部英語教室)

## Language Teaching in Australia Part 13

### —Australian Language Levels Project—

Tsuneo NASU

(*Department of English, Faculty of Education*)

#### I. はじめに

オーストラリアの多文化社会において、言語の重要性並びに英語を母国語とする、しないにかかわらず、彼等自身の言語を発達させたり、少なくとも他の言語をひとつ学ぶ全ての子供の権利がますます強調されてきている。同時に言語の熟達力は他の国々との商業的かつ政治的な相互作用にとって重要であることが認識されてきている。

このような文脈の中で、1985年のはじめ、協力的かつ協議的な方法でオーストラリア国内の初等、中等学校レベルで言語の教授に関わる人々のエネルギーと専門性を活用し、組織上のわく組みとカリキュラムの指針を発達させるために Australian Language Levels (ALL) Project が設立された。このプロジェクトによって3年後の1988年に作成され、発行されたのが ALL Guidelines である。ALL ガイドラインの基本的な理念は言語教育のためのリソースを提供する際に連邦政府に大きな影響を与えている *National Policy on Languages* (Lo Bianco 1987) の報告書の中にももられている精神と原則に一致している。それは言語の教授・学習における最新の研究と発達を抱括的に利用し、言語のカリキュラムのための首尾一貫したモデルを提供するものである。

外国語教育および第二言語としての英語教育をとりこんだオーストラリアの言語教育の歴史的な流れを回顧する時、ALLプロジェクトの設立とそのガイドラインの作成は意義深いと言える。

従って、本論では重要なALLガイドラインの中に盛られた内容を総論的に論じ、その特徴を明らかにすることを目標とする。

#### II. ALLプロジェクト設立の背景

まず、ALLプロジェクトがなぜ設立されたのか、その社会的な背景について考えてみたい。その際、二つの主要な観点、つまり、オーストラリアにおいて言語が必要とされる多様性に注目する必要がある。

オーストラリアにおける言語教育は、まず、特定で変化する多様なスピーチコミュニティから成るオーストラリア社会そのものを反映する複雑さや多様性に特徴づけられる。さまざまな言語がさまざまなプログラムによりさまざまな学習者の必要性をみたすために教えられている。約30の言語が中等学校の12学年で試験として測定されている。学習者は幼稚園から12学年までに及び、言語

を学び始める時期は異っている。どのようなプログラムの中にも彼等の家庭や教育課程の初期の段階で目標言語との接触をもった者と同様にそのような経験をもたない者がいる。

現在オーストラリアでは言語教授のためのさまざまなプログラムが行われている。それらは目標言語が教授の手段として用いられるバイリンガルプログラムから一つの教科として教えられる外国語教育にまで及んでいる。それらは州立の学校やインディペンデント・スクール、エスニック・スクールなどのさまざまな施設で行われている。このようにプログラムは目標言語が用いられる程度や目標、教授の施設の点でも、また、時間の割り当てや学習者のグループ分け、などの組織の点でも異なる。従って、このように、多様な言語、多様な学習者、さまざまなコンテキストの中での多様なプログラムの必要性をみとすために適切なカリキュラムが必要とされることが判明した。ALLプロジェクトはそのような多様な必要性を考慮するためのものであった。

次に、国の事業としてALLプロジェクトの背景となったもう一つの重要な特徴はオーストラリアの各州およびテリトリーにおける政府の教育組織の中でカリキュラムの政策が創造されたり、実施される際に異なるプロセスをもっているということである。たとえば、州の中にはカリキュラムの発達が中央集権化されている所があれば、また中にはそれが分散して行われる所もある。中等学校の教育課程の全ての段階に対して大規模なシラバス委員会をもっている所もあれば、その上級の学年にのみしかそのような組織をもっていない所もある。また、専門家の発達や立案、実施の点でも多くの多様性がみられ、さらに測定と指導の点でも大きな相違がみられる。国のプロジェクトはこのような多様性を考慮に入れる必要があった。

言語に関わってもう少し具体的に国の発達と政策の課題をながめてみると、今日のオーストラリアには言語に関して各州の政策と同様に国の政策すなわち、'National Policy on Languages'がある。これに関わって2点が注目される必要がある。第一に、国の政策であれ、州の政策であれ、その陳述は教室レベルでのカリキュラムの実践にかえられなければならないこと、第二に、州の状況や必要性も国のカリキュラムに向けての努力の中で考えられなければならないことである。そのような多様性を充足する手段として言語の領域における協力の重要性がNational Policy on Languageの中でも、また、1988年度国の優先事業として英語以外の言語とESLの教授・学習の推進を指定したオーストラリア教育審議会 (Australian Education Council) によっても認識されている。

このように、ALLプロジェクトは国の言語政策に基づいて、従来各州やテリトリーでさまざまに行われてきた言語の教授・学習をより統一のとれた、効果的なものに刷新しようとする試みであると言える。

### Ⅲ. ALLプロジェクトのアプローチ

くりかえすが、ALLプロジェクトは言語の教授・学習への国の政策を推進するために1985年2月に設立された。それは連邦政府のCurriculum Development Centreと南オーストラリア州の教育省との共同の資金援助を得ると同時に、オーストラリアの全州とテリトリーの教育省の支持をうけてすすめられた。言いかえればこのプロジェクトは言語教師や教師養成者、シラバスの作成者、教育行政者などを含めてオーストラリアの言語教育に関わる多くの人々のエネルギーや専門性、経験を統合する努力の結晶と言える。

従って、ALLプロジェクトチームは最初からALLガイドラインの作成にあたってオーストラリア国内の言語に関わる人々との協議の重要性を認識し、多くの言語教師やアドバイザー、コンサルタント、専門的な協会のメンバーなどからの貴重な考えやコメントをとりいれていった。とりわ

け、ガイドラインの必要性を認識し、その概念の支持やALLプロジェクトの資金を成功裡に得たことに対して Dr Ann Martin, そして、1985年の8月から1986年1月までALLプロジェクトのコーディネーターをつとめ、プロジェクトを結集し、国内の協議をまとめたことに対してDr John Clarkの貢献は大きい。その他、Prof. Michael Halliday (シドニー大学) やDr David Ingram (ブリスベン高等教育カレッジ), Dr Paul Tuffin といたコンサルタントの貢献も認められる。

他方、ALLプロジェクトチームを支える組織として、National Reference Group が各州およびテリトリーの教育省の代表者から構成された。その中には連邦政府の Curriculum Development Centre とオーストラリア近代語教師協会からの代表者も含まれていた。彼らの役割はプロジェクトチームに提案したり、またプロジェクトチームからの提案などに回答したり、彼等の出身の州やテリトリーの当該関係者とプロジェクトチームとの橋渡しをすることであった。彼等はまたALLプロジェクトについての情報を広めたり、州やテリトリーの中での reference group を組織し、ALLプロジェクトについての幅広い支持やアドバイスを得るこにつとめた。

このように、現職教育にたずさわっている人々と教師との間でこのプロジェクトがどのように発達させられるかについて情報交換が行われた。地方、各州のProject Reference Group とプロジェクトのコンサルタントは数回プロジェクトチームに会ってガイダンスを与えられた。現代語教師協会は各州で会を開いたり、ニュースレターを配布することによってプロジェクトチームとの情報交換を効率よくすすめていった。

このようなプロセスを経て、オーストラリアにおける言語教育の問題点やALLプロジェクトのとり組む課題や目標が明確にされることとなった。

#### (1) 言語教師に直面する諸問題と解決のための目標

ALLプロジェクトチームは組織上のネットワークを通して言語教育に関係する人達から以下のような問題点を明らかにした。

- 多くの学校において、とりわけ、モノリンガルスピーカーの生徒に対してLOTEの学習を動機づけることが困難であった。彼等の中には1年または2年以上のLOTEの学習を継続する生徒がほとんどいなかった。
- 多くの学校において、管理者と教師によってLOTEの学習が低くみなされていた。それによって生徒が言語の学習から遠ざけられた。
- 言語の授業の中でコミュニケーションの活動が重視されていないために多くの生徒が授業に適切性を見い出せないでいた。
- コミュニケーションを主体とした教えかたをするために教師は彼等の言語能力をのばす必要があった。
- 教師はカリキュラムを作成する機能を欠いている上に、作業やリソース、測定などの立案についてとり組む十分な時間をいつももっているとはかぎらなかった。
- 現職教育が十分に行われていないために、共通の問題を教師が協力して解決できなかった。
- 初等教育から中等教育へと、また同じ学校の中でも体系的に言語の学習が行われていなかった。
- 時間の長さや集中度の面で練習が十分行われるための時間が与えられていなかった。
- 生徒に有効なコミュニケーション能力をつけるために、授業の中でどのように指導すべきか教師にはわからなかった。
- 教師は能力や到達度の面で異なるクラスをどのように扱えばよいかわからなかった。とりわけ、母国語の話者と第二言語の学習者が同一クラスの中にいたり、またクラスのサイズが大

きすぎて実用的な活動がおこなわれなかった。

- norm-referenced grading 以外の方法で教師はどのように生徒を測定すべきかわからなかった。
- オーストラリアの実状を考慮にいれた教材がほとんどなかった。フランス語やドイツ語、イタリア語、ギリシャ語以外の言語のための teaching resource がほとんどなかった。
- 州によっては試験に出される問題と教師が授業で数えたいと思う内容と一致しない場合があった。

教師が抱えていたこのような問題の解決への糸口として以下の目標がかかげられた。

- とりわり、英語話者の間に言語学習に対するよりよい社会的な態度を助長するために LOTE 学習の価値と目的に関して言語が教えられる学校と地域社会の意識を高めること。
- 学校での LOTE 学習において生徒の達成感を促進すること。
- 言語学習が実用的で適切であるという感覚を与えるために授業の中で生徒のコミュニティブな技能をのばすこと。
- 生徒の学習時間をのばすこと。
- 学習時間の長さやクラスサイズ、施設、リソースの点で学校での LOTE の学習のためのより良い条件を作ること。
- カリキュラムの機能を向上させたり、教室の問題を解決することを意図した仕事を共同で行う現職教育の機会をもつこと。
- 教師が彼等の言語機能をのばすためのより良い機会をもつこと。
- 各州において LOTE のカリキュラムと学外の試験との調和をはかること。

## (2) 目標達成へのアプローチ

上記の目標を達成するために ALL プロジェクトチームは以下の4つの領域での作業に着手した。

- 5才から17才に至る LOTE の学習のための漸次的な段階のわく組み (framework of progressive) の確立。伝統的な外国語の学習のみならずバイリンガルプログラムに対しても妥当なわく組みである。
- 学校の管理者が目ざす学校のための指針作成。
- カリキュラムの作成者や評価のパネラー、教師が目ざす LOTE カリキュラムの立案と再考のための指針の作成。
- アドバイザーや教育長、コンサルタント、他の現職教育にたずさわる教官がめざす現職教師の教育者のための指針の作成。

学習のための漸次的な段階の構造の設定は、母国語話者であれ、第二言語の学習者であれ、年齢や能力、言語の背景、到達度を異にする生徒のために過渡的または最終的な目標を定めたり、また、学校の中や学校と学校の間、州と州との間にまたがって生徒が言語の学習を継続するための主要な手段を与えることを意図している。

学校にとっての指針は効率的な言語教授の施策とプログラムを作るために学校の管理者を援助することを目標とする。

LOTEカリキュラムの立案と刷新のための指針はLOTEカリキュラムの作成に関わる全ての人々に次の点で役立てることを意図している。

- カリキュラムの設計と刷新における今日の傾向を理解すること。
- 言語の教授・学習の過程に指針を与える原理をひき出すこと。
- シラバスを創造すること。

- さまざまな能力や言語の背景、到達度から成るクラスを扱うためのストラテジーを工夫すること。
- 生徒の進度をモニターしたり、記録したり、報告するために測定の案を入念に作り出すこと。
- 適切な教授・学習のための教材や教具を選んだり、適応させたり、創造したり、用いること。
- 授業での実践を評価し、それを向上させ、教師が彼等のカリキュラムをどのように刷新すればよいか学ぶのを助けること。

最後に、現職教育にたずさる教師のための指針は以下の点で彼等を援助することを旨とする。

- 教師の発展とカリキュラムの刷新の背後にある原理を教師が理解すること。
- LOTEの教師のために現職教育を立案し、実施すること、‘bottom-up’のカリキュラムの刷新が成功する条件を創造すること。
- 彼等自身の実践を評価し、それらを向上させること。

このように、4つの領域での作業の目的は一つの州またはあるコンテストの中で達成された仕事がある他の州または別のコンテストに活用されるように各州のカリキュラム作成者と教師のネットワークが同一の概念構造の中で言語を特定とするシラバスや試験、リソース、作業の立案を創造することを可能にする構造と指針となる基本的な原理を提供することにある。

### (3) ALL プロジェクトの理念

ALL プロジェクトではオーストラリアの言語教育に関わる諸問題を‘bottom-up’の方法で整理し、解決の方策を検討するやり方がとられている。その際、連邦政府の言語政策に基づいて連邦政府と州政府という縦の関係と各州とテリトリーという横の関係が配慮された構造がいかされている。最終的にALLプロジェクトの理念は個人のための言語学習と国のリソースとしての言語という概念によって規定される。

前者は学習者が次の事柄をできるようにさせることをねらう。

- 目標言語でコミュニケーションを行う。
- 知的、社会的な発達を促進する。
- 学習者の母国語と文化に対する彼等の理解を高める。
- 知識を広げ、別の言語と文化から得られた洞察でもって作業にとりくむ。
- 異なる文化生活に参加し、他の言語と文化の特殊性と人間の共通性を理解する。
- 自尊心を高める。
- 社会的公正をのばす。
- 職業の展望をひろげる。

## IV. ALL プロジェクトの抱括性

ここまではALLプロジェクトの方法論と理念を中心に考慮してきた。つづいて、ALLプロジェクトの理念を具体的に表わしたがガイドラインの内容をみてみたい。

ALLプロジェクトチームによって作成されたガイドラインは4冊の本から成る。それらのタイトルと各本の中で扱われている主な内容は以下の事柄である。

### 1 *Language Learning in Australia*

(内容)

The Essence of ALL

Rationale for Language Learning

The ALL Project

## Curriculum Renewal

Languages in the School Curriculum

Developments in Approaches to Language Teaching and Learning

Principles to Guide the Teaching / Learning Process など。

2 *Syllabus Development and Programming*

(内容)

Syllabus Organisation and Content

An Overview of Syllabus Development Programming など。

3 *Method, Resources, and Assessment*

(内容)

Section A : Method

A Learner-Centred Approach

Teaching Implications of the Eight Principles of Language Learning

Catering for Learner Difference

Approaches to Lesson Organisation

Section B : Resources

Criteria for Selecting, Adapting, and Creating Resources

Resources which Provide Communicative Data in the Target Language

Resources for which Promote Communicative use of the Target Language

Resources for Whole Class, Group, and Individual Learning

Textbooks as Resources

The Grading of Resources

Section C : Assessment

The Context for Developing Assessment Procedures

The Purposes and Content of Assessment Methods of Assessment

Developing Assessment Activities and Exercises

Judging Performance in Activities

Links with Senior Secondary Authorities など。

4 *Evaluation, Curriculum Renewal, and Teacher Development*

(内容)

Implementing Curriculum Change

Evaluation and Curriculum Renewal Teacher Development

Planning an Inservice Program

Coordinating Inservice Activities

このようにALLガイドラインで扱われている内容はカリキュラム、シラバスの作成や教授法、リソース、測定、評価を中核的なものとしながらも、教員養成や現職教育にまで及ぶ幅広いものとなっている。従って、もうすでに述べたように、このガイドラインが言語教育に関わりのある全ての人の指針であることを意図していることも理解される。

### V. ALLプロジェクトの本質

これまで述べた ALL ガイドラインの内容に基づいてその基本について考察するとこのように整理することが可能である。

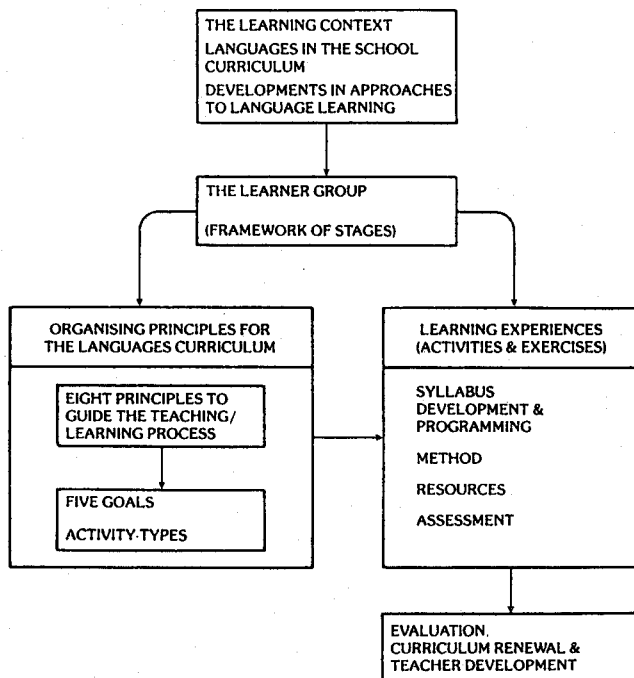
ALL ガイドラインの中で提案されているカリキュラムのモデルはこれまでのオーストラリアの言語教育の諸問題の現状認識にたち、学校での言語学習のために発展させられたもので、また、言語の教授・学習へのアプローチの中で授業でのすぐれた実践と発展に基づいたものである。それは学習者中心のアプローチを唱導し、学習者の特徴を記述している。言語のシラバスとプログラムは提案される進度のわく組みと年齢に関わる段階によって組織化されている。

ALL ガイドラインのカリキュラムは言語学習の本質に焦点をおき、8 の言語の教授・学習の理論を通して説明される。学習者は目的にかなった言語の使用を伴う一連の学習経験（活動とそれをさえる練習）にたずさわる。活動 (activities) は 5 つの幅広い領域の中で概括されている言語学習の共通の目標に向けて学習者が学習するのを助けるものと意図されている。

8 つの理論、5 つの目標、そしてさまざまな活動は ALL ガイドラインの中で提案されるカリキュラムを組織する原理である。それらは（教授法やリソース、評価の観点で記述される）学習の過程と同様に（シラバスとプログラムの中で計画される）学習の内容に影響を与える。

そのカリキュラムはダイナミックで、カリキュラムの刷新を通してたずえ洗練されたものである。このことはプログラムを計画・実施するために教師が用いるカリキュラム技能をうまく発揮させる進化的で批判的な評価の過程である。教師の作成するプログラムが学習者の必要性や関心にますます反応を示すようになってきているのはこのようにしてである。

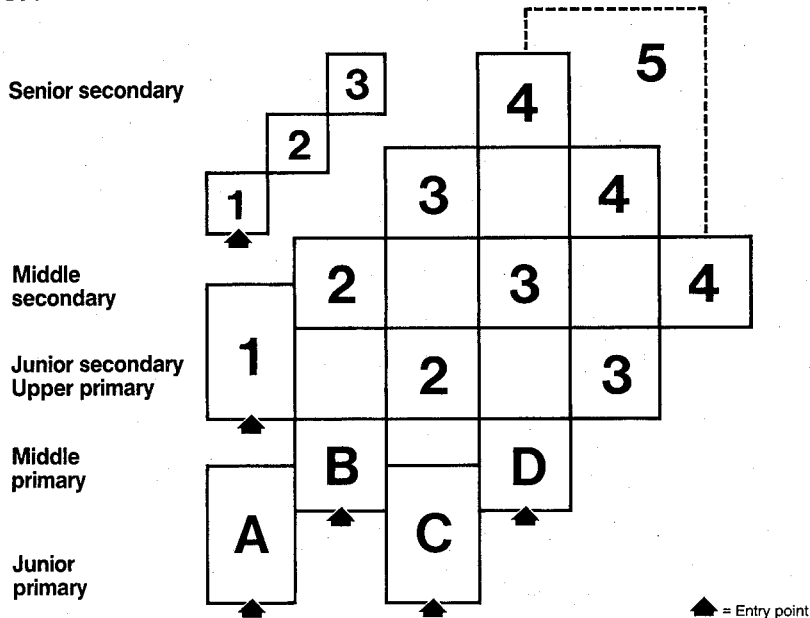
次の図表は ALL ガイドラインで提案されるカリキュラムの構成要素を焦点化したものである。



以下、それらの構成要素を一つ一つ検討してみると次のようになる。

(1) 組織上の構造：段階の概念

組織上の構造は段階の構造 (Framework of Stages) として記述されている。漸進的、連動した、年齢に関連している段階はさまざまな教育課題の局面での言語学習を記述する手段である。それらは以下のように、5つの年齢のレベル、つまり、Junior Primary, middle primary, upper primary / junior secondary, middle, secondary, senior secondaryに分けられている。各段階ではそれぞれ異なる年齢のレベルに適切なシラバスの内容と知識や技能、ストラテジーが学習活動を通して発展させられている。



段階の構造は行政上の機能と同様に教育上の機能を果たすために意図されている。それは次の領域における関心を扱う。

○ 行政上の便利さ

連続する言語学習を行政上便利な段階に分割する原則的な方法を与えること。

○ 移行と携帯性

同一の学校継続を促進するために、言語学習への多くの開始と退去の時期をみとめる。

○ 学習者の異なる言語背景の考慮

学習者の年齢や以前の学習経験に照らし合わせて、彼等がどの段階に到達しているかを記述したり、能力の混在する教室の中にも知れないさまざまな学習者の集団を見分けるためのメカニズムを与えること。

○ 短期の目的

現行の言語のプログラムは大抵12学年 (高校3年生) の終りにのみ達成可能な長期の目的を設定している。しかし、そのような目的は最終学年まで言語学習を遂行しない大多数の生徒にとって非現実的なものとなっている。さまざまな段階で適切で明確な学習目的を生徒や教師、学校に設定し、生徒の動機を高めること。

(2) カリキュラム

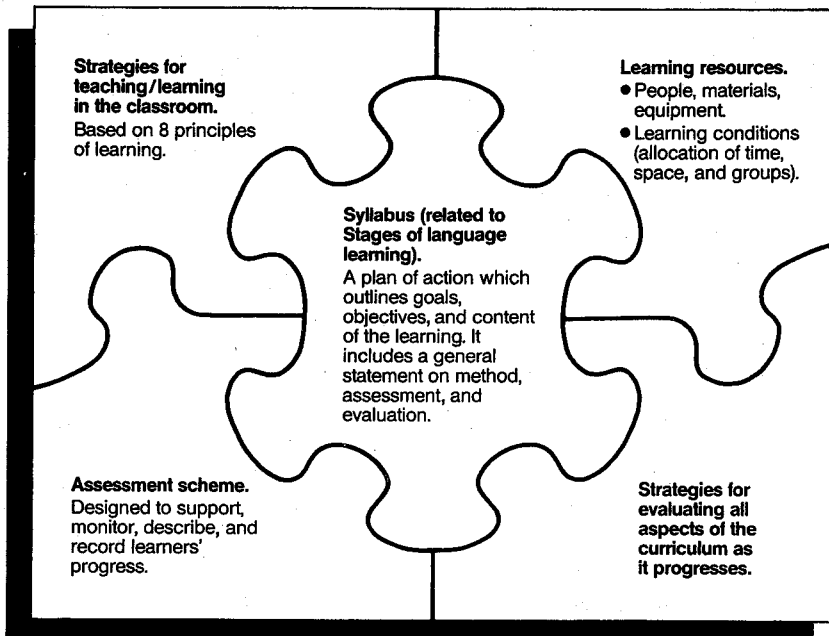
ALL プロジェクトではカリキュラムは教授・学習過程の全ての面を含み、以下のようにシラバ



スを中心とした4つの構成要素が密接に関係するジグソーを形成するものとして定義される。因みに、カリキュラム ジグソーを形成する部分となるものは次のようなものである。

- 言語学習の段階に関連するシラバス  
学習の目標や目的、内容を概括する行動の計画。それは教授法、リソース、測定、評価についての一般的な陳述を含む。
- 教室での教授・学習のためのストラテジー  
それは、8つの学習原理に基づいている。
- 測定案  
それは学習者の進歩をささえ、モニターし、説明し、記録することを意図する。
- 学習リソース  
それは人や教材、機器と学習の状況（時間や空間、グループの割り振り）を含む。
- 進度に応じて全てのカリキュラムの面を評価するストラテジー

Diagram 1: The curriculum jigsaw



### (3) 教室での実践並びに言語の学習への焦点

ALL プロジェクトはカリキュラムの決定に指針を与えるための一組の原理を発展させている。それらは実践を通しての経験や言語と学習について知られていることから引き出されたものである。

その原理は次に述べる学習者が言語を最もよく学ぶ8つの条件に関わる事柄である。それによると、学習者は以下の要件が満たされる時学習が最も効率よく行われるとするものである。

- 学習者が彼等自身の必要性和興味をそなえた個人として扱われる時
- 広範囲にわたる活動の中で目標言語をコミュニカティブに用いる機会を学習者が与えられる時。
- 理解が可能で、彼等自身の必要性和関心に適切なコミュニカティブなデータに学習者がふれる時。
- 言語獲得の過程をささえるためのさまざまな言語形式や技能、ストラテジーに学習者が計

画をたて、焦点を合わせる時。

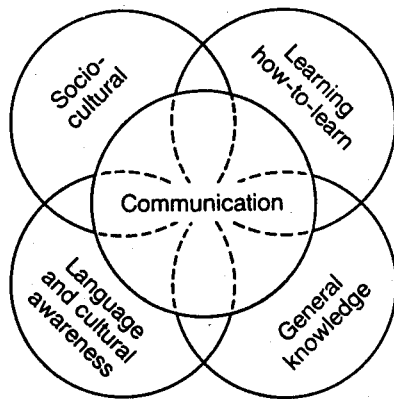
- 直接経験することによって目標言語の中にふくまれる社会文化的なデータと文化に学習者がふれる時。
- 言語と文化の役割と本質を学習者が理解する時。
- 彼等の進捗について適切なフィードバックが与えられる時。
- 自分自身の学習を統制する機会が与えられる時。

#### (4) 学習者への焦点

ALLプロジェクトは学習者中心のカリキュラムを唱導し、一人一人の学習者の言語学習の必要性が、彼等の特定の学習スタイルと同様に、考慮されている。学習者は受動的な受納者であるよりむしろ積極的な参加者としてみなされ、学習者は彼等自身の学習にますます責任をもつように励げまされる。

#### (5) 統合化されたプログラムへの焦点

ALLプロジェクトは全ての言語のプログラムに適切である5つの幅広い目標を次のようにかかげている。



これらの5つの幅広い目標、つまり、コミュニケーションの目標、社会・文化的な目標、学び方学習の目標、言語と文化認識の目標、一般知識の目標は、さまざまな段階で強調される度合が変るけれども、言語学習の全ての段階に適用される。これらの目標のうちで、中心となるのはコミュニケーションの目標で、他の4つの目標はこの目標に調和される。

学習者はコミュニケーションの目標を達成するために次の事柄が目標言語でできることを目的とする。

- 情報やアイデア、意見、考え方、感情、経験、計画の交換することによって、関係を確立し、維持し、さまざまな興味のある話題について話しあう。

- 他の人と一緒に問題を解決し、話し合いをし、決めたり、また、品物やサービス、公共の情報を得るために交渉を行うことに関わる社会的な相互作用に参加する。
- 話されたり、書かれたテキストから特定の詳細を求めることによって情報を得、つぎに、得られた情報を処理し、用いる。
- 話されたり、書かれたテキストを全体として聞き、読むことによって情報を得、その情報を得、その情報を処理し、用いる。
- たとえば、話をしたり、随筆や指示を書くなど、話し言葉や書き言葉の型式で情報を与える。
- たとえば、物語や劇、映画、歌、詩、絵などの興味をおこす物を聞き、読み、見、そして、個人的に反応する。
- たとえば、物語や劇的なエピソード、詩、劇を創作したりするなど、個人的な表現方法で話し、書いたりする。

#### (6) 特定の言語形式や技能、ストラテジーの発達と同様に言語の使用への焦点

ALLプロジェクトは活動を基礎とした (activities-based) カリキュラムの設定を提案している。ただ単に言語について学ぶのではなく、言語の使い方を学ぶことが強調される。活動は教授・学習の中心的な単位として見なされ、次のように定義される。

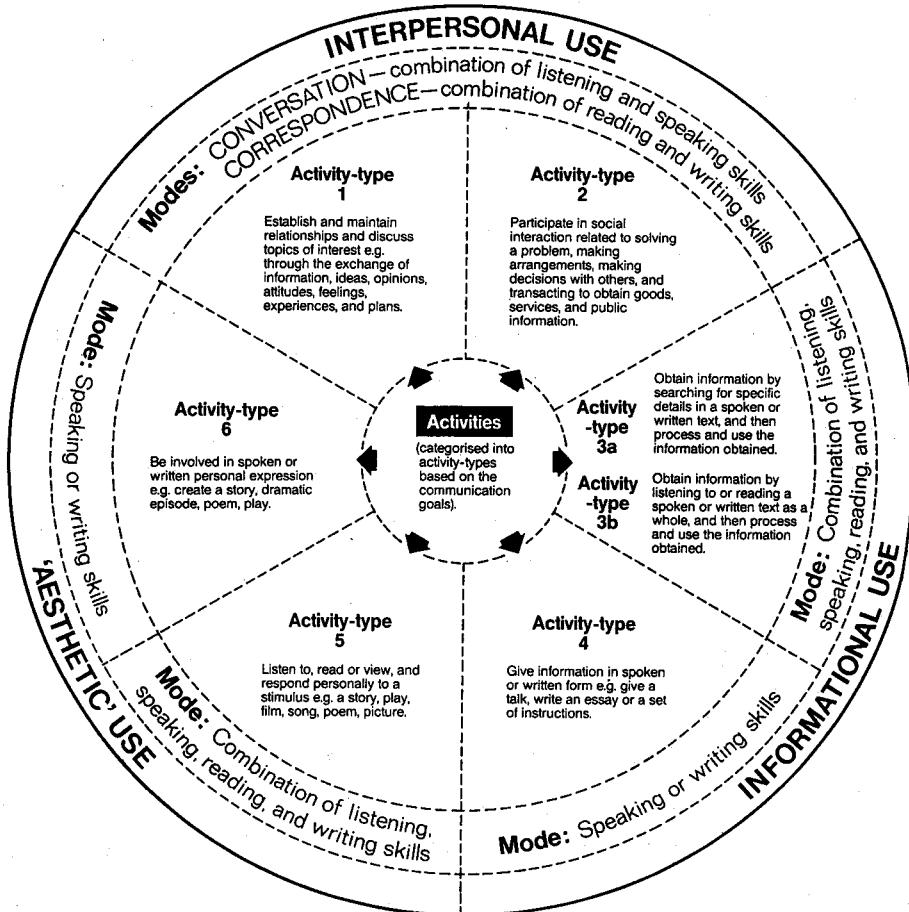
活動はある決まったコミュニケーションの場面の必要性をみとすために学習者が彼等のリソースを求めなければならない、目的にかなった、積極的な言語の使用を含むものである。

この定義は原理2の中で記述されるように、幅広い活動の中で目的にかなった言語の使用の概念を伴う。このことは特定の言語形式や技能、ストラテジーが価値のないものとみなされたり、活動を基礎とした学習の中で必須のものと考えられないということの意味するものでない。学習者はまた学習過程を育むために幅広い focussing exercises に取り組む。

活動は基本的な原則にたつて範疇化されなければならない。すでに記述されたコミュニケーションの目標は活動を計画する際に基本的なもので、それに従って活動はいくつかの型の活動 (activity - type) に範疇化される必要がある。ALLプロジェクトにおいてシラバスの設計やプログラミング、測定のための組織上の基礎となるのは activity - type である。

組織上の単位としての activity - type の範疇化は以下の Table of Language Use の中で確立されている。それは3つの言語使用の領域 (対人に関わる領域、情報に関わる領域、美的感覚に関わる領域) と言語使用の形式 (マクロスキルの結合したもの)、6つの幅広い activity - types を関連づけて示したものである。6つの activity - types の中にある多くの活動と3つの言語使用の領域の中でのさまざま形式で言語を使用することによって、学習者は言語学者のそれぞれの段階で提案される目的や目標に向かって進む。

Table of language use



## (7) 教師と学習者との協同的な相互作用への焦点

ALL プロジェクトでは単一のアプローチは唱導されていない。代りに、教師はすでに説明された言語学習の8つの原理に基づいた折衷的なアプローチを採用することが提案されている。教師と学習者の役割が互いに知識を授与するものと受けとるものとの関係から、教師は助成者へと学習の過程の中での共同者の役割へ移る。協力的な学習のスタイルが学び方学習と共に重視されることが提案されている。

## (8) 測定

測定は学習の終りにただつけ加えられるべきものではなくて、学習者中心のカリキュラムの不可欠な部分としてみなされる。それはダイナミックなプロセスで、学習者が特定のコースまたは単元の目的をどの程度満足いくまで達成したかを定めることにかかわっている。それは、同時に、学校や教育組織、社会（両親や用人、コミュニティー）の必要性をみだしながら、特定の学習のプログラムを知るために言語の使用能力を説明したり、学習者の発達を促進するという教育的な機能をもっている。

従って、測定は次のような目的をもつものと説明されている。

- 学習者と教師を動機づける。
- 教授・学習過程に情報を与え、さらにカリキュラムの計画の指針を与える。
- 他の関連する人（生徒のカウンセラー、両親、学校、地域社会など）に情報を与えること。
- 学習者が協同で学習をすすめるのを励めます。
- 学習者が学習過程と評価過程に関わるように彼等の責任と参加を励めます。

## (9) 評価

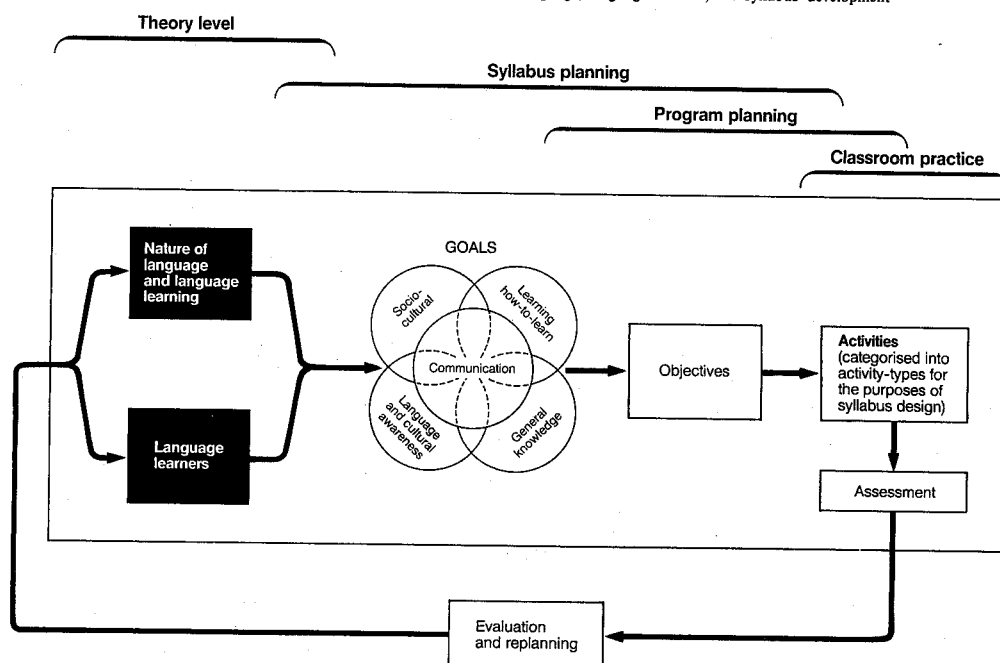
ALL プロジェクトでは 'assessment' (測定) が目標と目的に関して学習者の言語使用の能力をモニターし、測定するための実践と手順をさすのに対して、'evaluation' (評価) はカリキュラムの効果を測定するために用いられる手順をさす。評価はカリキュラムの刷新と教師の発達の過程が統合された部分としてみなされ、全体としてのカリキュラムの価値と同様にカリキュラム個々の部分（ジクソーのピース）価値を決める積極的なプロセスとしてとらえられている。）

評価は次のような主要な目的をもつものとみなされている。

- カリキュラムと学習者が学ぶ質の点で長期の向上を援助する。
- 学習の目的が達成されているかどうか確かめる。
- 教師の専門的な発達の機会を与える。

まとめるとALLプロジェクトでは言語学習と言語の学習、シラバスの展開、プログラムの立案、教室での実践との関係が以下のように説明されている。一方では、学習者と彼等一人一人の必要性、他方では、言語と言語学習に関する理論が言語学習の目標と目的の形成とそれらが授業の中でどのように実践されるかに影響を与える要因としてとらえられている。

Diagram 1: Framework showing the relationship between language, language learners, and syllabus development



## VI. おわりに

ALLプロジェクトはイギリスで実践されている Graded Objectives in Modern Language (GOML) や Graded Levels of Achievement in Foreign Language Learning (GLAFLL) を模範にして考慮された、これまでにみられないオーストラリアにおける言語教育の刷新である。実施されて日が浅いためこのプログラムに対して十分な評価がなされているとは言えない。しかしながら、多くの課題をかかえているオーストラリアの言語教育にとってこのプロジェクトがどのような成果があげられるかは今後注目されるところである。

## 参考文献

- Lo Bianco, J. (1987) *National Policy on Languages*. Canberra : Australian Government Publishing Service.
- Scarino, Angela, Vale, David, Makay, Penny, and Clark John (1988) *Australian Language Levels Guidelines Book 1*. Commonwealth of Australia : Renwick Pride Pty Ltd.
- Scarino, Angela, Vale, David, Makay, Penny, and Clark John (1988) *Australian Language Levels Guidelines Book 2*. Commonwealth of Australia : Renwick Pride Pty Ltd.
- Scarino, Angela, Vale, David, Makay, Penny, and Clark John (1988) *Australian Language Levels Guidelines Book 3*. Commonwealth of Australia : Renwick Pride Pty Ltd.

Scarino, Angela, Vale, David, Makay, Penny, and Clark John (1988) *Australian Language Levels Guidelines Book 4*. Commonwealth of Australia : Renwick Pride Pty Ltd.

(平成3年9月30日受理)

(平成3年12月27日発行)